
時間が戻せるとしたら

凜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

時間が戻せるとしたら

【Nコード】

N8713Z

【作者名】

凜

【あらすじ】

「ねえ、もし時間を戻せる能力を持っていたらどうする？」
心に傷を負っている一人の少女が親友の3人に尋ねました。
3人の親友は皆同じような答えでした。「時間を戻す」と。
心に傷を負っている少女の親友達も心に傷を負っていました。
親が居なかったり、虐待されたことがあったり……
そんな少女達の物語

主人公設定（前書き）

何となくこんな話を書きたいなあと前から思っていたので書いてみました。

今回は設定だけです。

主人公設定

主人公設定です。次話からこの子達の物語が始まります。

松本椎名まつもとしいな

- ・ 14歳の中学2年生女子。
- ・ 髪は腰くらいまでである。
- ・ 結構明るい性格。

佐藤詩織さとうしお

- ・ 14歳の中学2年生女子。
- ・ 髪は肩にかかる程度。
- ・ 明るい性格。

望月夜空もちつきよぞら

- ・ 14歳の中学2年生女子。
- ・ 髪は肩にかかる程度。
- ・ 大人しい性格。

鈴木美緒すずきみお

- ・ 14歳の中学2年生女子。
- ・ 髪は肩にかかるくらい。
- ・ 明るい性格。

謎のお婆さんとの出会い（前書き）

文章おかしいと思います……

謎のお婆さんとの出会い

「おかあさんいたいよ。しいなのことはたかないで。おとうさんけんかしないで。」

しいながわるいごだからいけないの？ならいいごにするからもうやめて……………」

ピピピピピピピ……………（目覚ましの音）

椎名「またあの頃のゆめ、か。最近多いな。」

松本椎名は昔、母親から虐待を受けていた、父親はその事で母親と喧嘩をし、
そして両親は離婚した。今は父親と一緒に暮らしている。

父親「しいな？もう朝だぞー！」

椎名の部屋にノックもせず父親が入ってきた。

椎「っお父さん！！ノックしてから入ってきてよ！！着替え中だったらどうすんのー！」

父「あ、ごめんごめん。起きてたんだな。おはよう。」

椎「今度からは気をつけてね？おはよ。着替えるから部屋から出てつてくれない？」

父「あ、ああ分かった。朝ごはんはもう用意してるから。ちゃんと食べるよ？」

お父さんはもう仕事に行くから。」

椎「わかったー。いつてらっしゃい、お父さん。」

父親は微笑みながら「いつてきます」と言っつて私の部屋から出て行つた。

私は父が部屋から出て行くつと中学校の制服に着替えた。着替え終わると階段を使つて下に降り、キッチンに行く。

そしていつも通り一人で朝ごはんを食べ、いつも通りの時間……いや、今日はいつもよりもちよつと早い時間に家を出る。

特に早く行く用事はないのだが、何となく早く出ないといけな気がしたのだ。

椎「早い時間に出たんだからいつもの道じゃない道を通ろつかない？」

椎名の家から中学校は近いのでいろんな道から中学校へ行く事が出来る。

いろいろな道の中から椎名は一つの道を選んだ。

椎「(なんでだろう?こつちに来て言われてるような気がする……)」

椎名はそんな事を思いながらその道を歩いていく。そして人通りがいつも少ない所を

通り過ぎよつと歩いていくと、一人のお婆さんに声をかけられた。

椎「な、何ですか？」

お婆さん「あなた、時間を戻す能力を持っていたらどうするのかい？」

椎「え?……時間を戻して後悔した事をやり直しますね。」

お婆さん「そつかい。じゃあ、また明日、この時間にここへ来なさい。

きつと良い事が起こるよ。」

お婆さんはそういつてどこかに行ってしまった。椎名はお婆さんが言っていた事が、すぐく気になつて仕方がなかった。少しそこで考えていたけど、登校完了時間まであまり時間がなくなつてしまったので急いで学校に向かった。

学校についてからもお婆さんの言っていた事を考えていると声をかけられた。声をかけてきたのは

詩織「なにボーっとしてんの？椎名らしくない。」

椎「ああ…詩織か……」

詩「あぁつて…それだけ！？せつかく人が心配して声かけて上げたのに！」

椎「ごめんごめん！ちよつと考え事してて……」

詩「あたしでよかつたら相談に乗るけど？」

椎「……………ねえ、もし時間を戻す能力を持っていたら詩織はどつする？」

謎のお婆さんとの出会い（後書き）

やっぱり文章が変な気がする……
よかったら感想などお願いします！

詩織の答え（前書き）

更新遅くてすみませんでした!!

詩織の答え

椎「もし時間を戻せる能力があったら詩織はどうする？」

詩「え？何？いきなり。……んー、そうだな。時間戻すでしょ。普通に。」

椎「だよー……」

詩「それ、椎名が悩んでる原因？」

椎「まあね……」

詩「どうしてそんなことで悩んでるの？椎名らしくない。」

椎「……実は」

椎名は登校している時にお婆さんに会ったこと。そのお婆さんにそんな事を聞かれたことを詩織に話した。

詩「へー。それであんな事聞いてきたのね。」

椎「うん。何かどうしてもおばあさんが言ってた事が気になって。」

詩「けど明日また来いって言われたんでしょ？明日になれば分かるんだから」

それまでその事は考えないようにするっ！それでいいでしょ。」

詩「……うん。そうだね、そうする。」

椎名がそう言った瞬間に授業の始まりを知らせるチャイムが鳴り響いた。

詩織はチャイムが鳴ったので自分の席に戻っていった。

・・・

詩織は席に戻ったあと、考え事をしていた。

詩「（椎名も、か）」

詩織も謎のお婆さんに能力は違かったがそんな事を聞かれたのだ。
詩織がお婆さんに言われた能力は「傷を癒す能力」

詩「（傷を癒すってどういうこと？意味わかんないんだけど！？
傷って心の傷？それとも体の傷？……………まあいいや。明日になりや
分かるでしょ！）」

詩織はそう思い、すぐに授業に集中して取り組んだのだった。

詩織の答え（後書き）

何か変な終わり方になってすみません。
次は初登場の人が2人出ます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8713z/>

時間が戻せるとしたら

2012年1月6日17時45分発行